

一般演題 10-3 放射線腸炎に於ける高気圧酸素治療

千葉義夫 鈴木裕之 井門雄志 辻 大輔
木村成暁 藤ノ木 萌 山口和政 野村美歩
平林孝一 本郷祥子 倉重昂也
社会福祉法人 仁生社 江戸川病院 ME室

当院は2007年に放射線治療(トモセラピー)を開始、2010年には2台目を導入し、2013年には3台目を導入し、患者様の治療を行っている。

当院の放射線治療機はIMRT(強度変調放射線治療機)を採用しており、患者様の副作用が最小限に抑制出来る様、努力に努めている。

平成24年度、当院での放射線治療回数は16137件(月平均1345件)、年々増加傾向にある。

今回我々は、72才男性の前立腺癌の患者様に対し当院にて放射線治療を施行し、施行後約1年経過し放射線腸炎の診断された患者様に高気圧酸素治療(以下HBOと略す)を施行した経験を報告する。

【経緯】

2010年5月に前立腺癌の診断を受け狭心症のリスクなどを考慮し、ホルモン療法+トモセラピーを治療を施行。約1年後から少しずつ下血症状が看られ経過観察も2013年1月下血症状改善されず2013年2月よりHBO開始となる。

HBO開始前の内視鏡検査による結果は放射性直腸炎。

【HBO治療経過】

HBO治療10回目にて下血は激減、HBO17回目には下血症状はなし、1週間に1回程度排便時に少量程度あるくらいまで改善が看られた。

その後も少量の下血が看られたがHBO治療は合計35回で終了した。

【結果】

HBO後6か月の内視鏡検査では改善傾向がみられる所見だった。

ほとんど下血もなく、ヘモグロビンの数値もHBO前9.5まで低下したが11.8まで上昇した。

【考察】

放射線腸炎は卵巣がんや前立腺癌などに対して放

射線治療を行い、副作用として生じる腸管の障害で腸管粘膜の壊死が起き時に腸管の粘膜だけでなく大腸壁や周囲組織の内膜炎や血栓形成により生じる障害で腸粘膜にびらんや深い潰瘍がみられ障害が強い場合には腸管の狭窄が起きる場合がある。

症状的には下痢や下血、便の狭小化。

治療線量が60Gyを超えると発生率が高くなると言われている。

高気圧酸素治療は粘膜修復促進作用に対して期待されており症状が改善してくると思われる。

【まとめ】

HBO治療終了後大腸内視鏡検査では特に大きな改善がみられる所見はなかったが6か月後の大腸内視鏡検査では改善がみられる所見だった。

HBO10回目の施行で下血症状が激減したが、完全に下血がなくなったわけではない。

HBO35回終了時は、ほとんど下血もなくトイレトペーパーに付着する程度。

患者様の不安を少しでも解消するために、下血する時間帯などを考慮し、HBO開始時間やふらつき、ヘモグロビンのチェックなどを把握し安全管理に努めたい。

当院の副作用	20～30%(残尿感やトイレが近い)
	2～3% 血便